



六供遺跡群 No.5

前橋都市計画事業六供土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2009.12

前橋市埋蔵文化財発掘調査団





はじめに

前橋市は関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前の旧石器時代から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感じることのできる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋の地は、800余りの古墳が存在していたように、上毛野国を中心地として栄え、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王庵寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府など重要な施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東四名城の一つに数えられる腰橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され、日本の発展の一翼を担うなど、まさに、歴史性豊かな街です。

六供遺跡群No.5は、市の南部に位置し、土地区画整理事業に伴う道路建設に先立つ発掘調査です。調査の結果、4世紀から6世紀に営まれた古墳時代の住居跡が発見されました。区画整理事業区域内には、かつて水田であった場所と畠であった場所があります。畠からは集落跡が見つかり、水田であった場所には古代も同じように水田が営まれておりました。今後、調査成果を積み重ねることにより、今まで知られていないかった本地域の古代の様子が解明されることが期待されます。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面的ご配慮の結果といえます。また、猛暑の中、汗にまみれながら直接作業に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成21年12月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 戸塚 良明



例　　言

1. 本報告書は前橋都市計画事業六供土地区画整理事業に伴う六供遺跡群No.5発掘調査報告書である。
2. 調査主体は前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
3. 発掘調査の要項は下記のとおりである。

調査場所	群馬県前橋市六供町198番地9ほか
遺跡コード	21 H 47
発掘調査期間	平成21年6月15日～平成21年7月17日
整理・報告書作成期間	平成21年7月21日～平成21年12月28日
発掘・整理担当者	山田誠司（技研測量設計株式会社）
4. 本書の編集は山田が行なった。執筆分担はIを神宮 啓（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）、他を山田が担当した。
5. 発掘調査及び整理作業参加者は以下のとおりである。

【発掘調査】 遠藤逸子 速藤好則 大川悦子 大久保恆太郎 國野 茂 川又隆一郎 坂田裕之 木村広美
高山 愛 田部井美砂子 平野ミツ子 本多和子 丸山和浩 矢内ヒロ子

【整理作業】 木村広美 下田順子 高山 愛 蔵澤佳子 福島禄子 堀越晴子 山下雅江
6. 発掘調査・整理作業全般において前田和昭・佐野真平・中村彦彦・大川明子（技研測量設計株式会社）の助力を得た。
7. 発掘調査で出土した遺物及び図面等の資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1. 採図中に使用した北は、座標北である。
2. 採図に国土交通省国土地理院発行の1/25,000の地形図「前橋」を使用した。
3. 道構及び道構施設の略称は次のとおりである。

H…窪穴住居跡	D…土坑	P…ピット
W…溝跡	I…井戸	X…その他
4. 土層・遺物の色調は農林水産省農林水産技術會議事務局監修「新版標準土色帖」に掲げる。
5. 道構・遺物の図面の縮尺は原則として以下の通りである。その他は、各図スケールを参照されたい。

道構 住居跡・墓・溝・井戸・土坑・ピット…1/60	断面…1/30
遺物 土器…1/3	石器・石製品…1/1, 1/2
6. 計測値については()は現存値、[]は復元値を表す。
7. トーン~~II~~は地山・太線は道構面を示す。
8. 遺物実測図、道構図のトーン表現は以下の通りである。

■ 須恵器（還元焰焼成）	■ 石器磨面	■ 床硬化範囲	■ 灰・焼土・粘土
--------------	--------	---------	-----------
9. 主な火山降下物当の略称と年代は次のとおりである。

As-B(浅間B軽石:供給火山・浅間山、1108年)
Hr-FP(榛名ニッ岳伊香保テフラ:供給火山・榛名山、6世紀中葉)
Hr-FAt(榛名ニッ岳洪川テフラ:供給火山・榛名山、6世紀初頭)
As-C(浅間C軽石:供給火山・浅間山、4世紀前半)



目 次

はじめに

例言・凡例

I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の立地と環境	1
III 調査の方針と経過	3
IV 基本層序	3
V 遺構と遺物	5
VI まとめ	15

挿図目次

Fig. 1 道路の位置及び周辺道路分布図	IV	Fig.11 H-12・14号住居跡	23
Fig. 2 周辺道路と六供遺跡群	2	Fig.12 H-13号住居跡	24
Fig. 3 基本土層図	3	Fig.13 H-8号住居跡出土遺物	25
Fig. 4 調査区全体図	4	Fig.14 H-8・15号住居	26
Fig. 5 H-1号住居跡	17	Fig.15 H-16号住居、I-1号井戸、D-1～3号土坑	27
Fig. 6 H-2～4号住居跡	18	Fig.16 W-1・2号溝	28
Fig. 7 H-5・9号住居跡	19	Fig.17 H-1～7号住居出土遺物	29
Fig. 8 H-6・11号住居跡	20	Fig.18 H-7・8号住居跡出土遺物	30
Fig. 9 H-10号住居跡	21	Fig.19 H-8～15号住居跡出土遺物	31
Fig.10 H-7号住居跡	22	Fig.20 H-10～15号住居跡、D-2号土坑、W-1・2号溝、X-1号墓出土遺物	32

表目次

Tab. 1 周辺道路一覧表	2	Tab. 3 出土遺物観察表	3
Tab. 2 土坑計測表	13		

写真図版目次

PL. 1 調査区全景	PL. 4 H-15・16号住居跡、I-1号井戸、D-1～3号土坑、X-1号、調査風景
PL. 2 H-1～5・7・8号住居跡	PL. 5 出土遺物
PL. 3 H-9～15号住居跡	PL. 6 出土遺物



Fig. 1 道跡位置及び周辺道跡分布図

Tab. 1 周辺道跡一覧表

番号	道 跡 名	番号	道 跡 名	番号	道 跡 名	番号	道 跡 名	番号	道 跡 名
1	六供道跡群No5	11	東京安寺道跡	21	東田道跡	31	小旦郡道跡	41	後閣道跡
2	六供道跡群	12	鶴川端道跡	22	宮地田中道跡	32	朝倉2号墳	42	後閣Ⅱ道跡
3	牛川道跡	13	下新田道跡	23	不二山古墳1・Ⅱ	33	長山道跡	43	六供東京安寺道跡
4	西天神道跡	14	上佐島中原前道跡	24	寄居道跡	34	朝倉1号墳	44	六供下堂木原道跡
5	六供下堂木原道跡	15	公田藪道跡	25	站立文麿船道跡	35	鎮守廻り道跡	45	文京町No1道跡
6	六供中天安寺道跡	16	下佐島道跡	26	天川二子山古墳	36	朝倉3号墳		
7	六供下堂木原道跡	17	公田池尻道跡	27	二子山前Ⅰ道跡	37	八幡山古墳		
8	六供下堂木原道跡	18	萩原田地道跡	28	二子山前道跡	38	後閣尾地道跡		
9	中大門道跡	19	宿内町城内道跡	29	二子山前Ⅱ道跡	39	坊山道跡		
10	西京安寺道跡	20	川曲道跡	30	二子山前Ⅲ道跡	40	天神山古墳		



I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業六供土地地区画整理事業に伴い平成21年2月19日に実施した試掘調査結果を踏まえ、平成21年4月2日付で前橋市長 高木政夫（区画整理第一課）より埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。これを受けた前橋市教育委員会より、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団団長 戸塚良明（以下「調査団」という。）に発掘調査実施について協議があった。しかし、調査団では既に市内数ヶ所において直営による発掘調査が予定されており、調査直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託したいとの回答をした。民間調査組織の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、5月29日付で前橋市と調査団との間で発掘調査業務契約を締結し、その後、6月3日付で調査団と民間調査組織である技研測量設計株式会社 代表取締役社長 岬田大和との間で発掘調査業務契約を締結し、発掘調査開始に至る。

なお、遺跡名称「六供遺跡群No.5」（遺跡コード：21H47）の「六供遺跡群」は区画整理事業名を採用し、数字の「5」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

II 遺跡の立地と環境

六供遺跡群No.5は前橋市六供町198-9ほかに所在し、JR前橋駅の南約1.2Kmに位置する。周辺には前橋・玉村線をはじめ主要な幹線道が走り、これら幹線に沿って市街化・開発が進み、本遺跡も住宅街の一画にあたる。

本遺跡は前橋台地上の東方、利根川左岸に位置し、標高は約98.0mから98.3mで、東から西へ緩やかに傾斜している。前橋台地は浅間山噴火に起因する火山泥流堆積土と、それを被覆する水成ローム層からなる洪積台地で、東は広瀬川低地帯と直線的な崖で区切られ、北西には榛名山麓東南域に広がる相馬ヶ原扇状地の端部が迫っている。なお、本遺跡の西側を流れる利根川はかつて広瀬川低地帯を流れていたと考えられており、現在の流路となったのは天文年間(1540年頃)以降とされている。

本遺跡の周辺の歴史は繩文時代草創期後半の「撫糸文式土器」の見つかった櫛島川端遺跡にはじまり、弥生時代には隣接する高崎市で日高遺跡等からAs-C軽石下の水田検出が組合いでいる。

古墳時代に入ると広瀬川の右岸、旧市域から旧上陽村の東善にかけて帶状に連なる古墳群地帯を形成し、昭和10年の県下一斉調査では、前橋市15基、旧上陽村113基、隣接する旧上陽村41基を数えた。しかしながら、後世の開墾や宅地造成により大半は未調査のまま削平されている。現在では八幡山古墳(国指定史跡、4世紀後半、前方後方墳、全長約130m)、前橋天神山古墳(県指定史跡、4世紀後半、前方後円墳、全長約129m)等が、当時の古墳群の面影を残し、当地域が古墳時代初期から継続的に発展していたことを窺わせる。また、住居跡関連では古墳時代前期の六供下堂木II遺跡、六供中京安寺遺跡が、古墳時代後期の後園II遺跡、坊山遺跡、川曲遺跡等が確認されている。水田跡関連では、Hr-FA下の水田が、櫛島川端遺跡、公田池尻遺跡、六供下堂木II遺跡等で検出されている。

古代に入ると、本遺跡近隣では六供下堂木II・III遺跡、六供中京安寺遺跡で住居跡が検出されている。また、中大門遺跡、後園II遺跡をはじめ、条里制の面影を残す水田跡が確認されている。特に、宮地中田遺跡ではAs-B下より平安時代後期の水田跡が92枚検出され、東西3本、南北1本の方形区画の条里水田跡が確認された。これは高崎東部・北部で確認された条里制水田跡が利根川を挟み、前橋南部まで及んでいたことを示している。

本遺跡の近隣では古墳時代を含め、奈良・平安時代の住居跡と水田跡が多く確認されており、当時の土地利用についての考察・復元が試みられている。今後の発掘調査等による資料の蓄積をとおして、より詳細な土地利用のあり方を解明していくことが期待される。

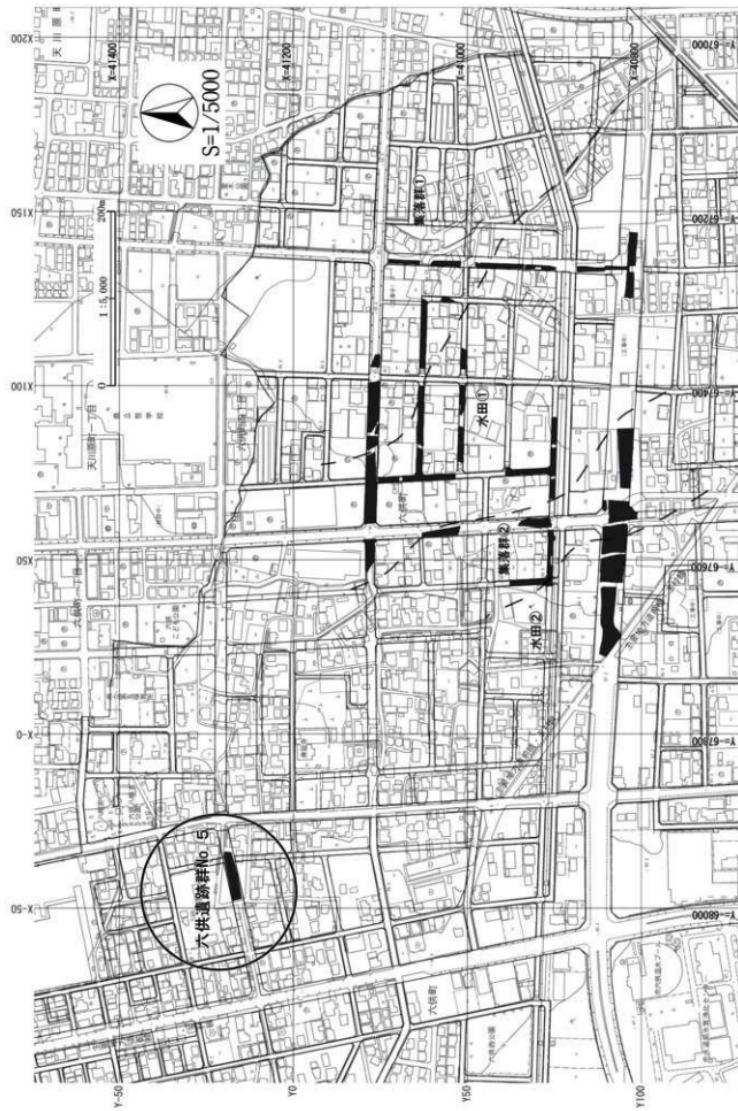


Fig. 2 刷毛道路・六供道路群No.5



III 調査の方針と経過

1 調査範囲と基本方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業六供土地区画整理事業の道路予定地で、調査面積は約700m²である。グリッド座標については、日本測地系(Tokyo Datum)平面直角座標系第Ⅷ系に準拠した、4mピッチの方眼杭を打設した。

本遺跡のX 0・Y 0の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系 X = 41200.000 Y = - 67800.000

世界測地系 X = 41554.964 Y = - 68091.829

調査方法については、排水場等の関係から調査地内での折り返し調査を行なうこととし、調査区東半・西半の順に、表土掘削・道構確認・杭設定・道構掘下げ・道構精査・測量及写真撮影の手順で実施した。図面作成はトータルステーションによる測量を行ない、写真記録は35mmモノクロ・リバーサル、デジタルカメラの3種類を用いた。なお、整理作業にあたっては、DTP的手法を用いて本文・図面・図版まで全ての作業をパソコンコンピュータによるデジタル編集を行ない、報告書を作成した。

2 調査経過

本遺跡の発掘調査は6月15日に、調査区東半の重機による表土掘削から開始した。表土掘削後に道構確認を行なったが、後世の擾乱が広範囲に亘り、道構の残存状況は芳しくなかった。H-16号住居跡及び3基の土坑を確認し、順次、掘下げを行なった。なお、H-1・H-15号住居跡もこの段階で確認したが、H-1号住居跡を切るH-15号住居跡の大半が未掘削の調査区西半に掛かっており、両住居跡の掘下げについては調査区西半での調査時に実施することとした。6月23日に図面作成、写真撮影を実施し、調査区東半の調査を終了した。

6月24日・25日に調査区東半の埋め戻しと調査区西半の表土掘削を行ない、6月29日より道構確認を開始した。調査区西半では擾乱を受けているものの、道構の残存状況は比較的良好であった。以後、道構確認・掘下げ・各種記録作成等を併行して実施し、7月16日に現地での全調査を終了、17日に埋め戻しを行なった。

IV 基本層序

I層が表土層、II層が擾乱土層である。II層の搅 98.500

乱土層は調査区全面に見られ、直近の土地利用から宅地造成に伴う擾乱と考えられ、石油製品・空き缶等を含んでいる。道構確認面はIII層としたローム層、III-1層上面にあたる。

なお、I・II層は共に細分層が可能であるが、場所により堆積する土の違いがあるため、詳細については各土層断面図の中で提示する。

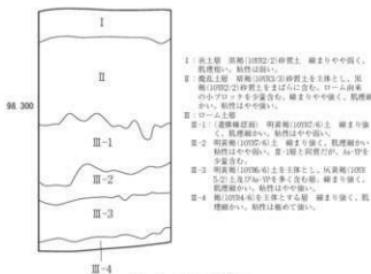


Fig 3 基本土層図

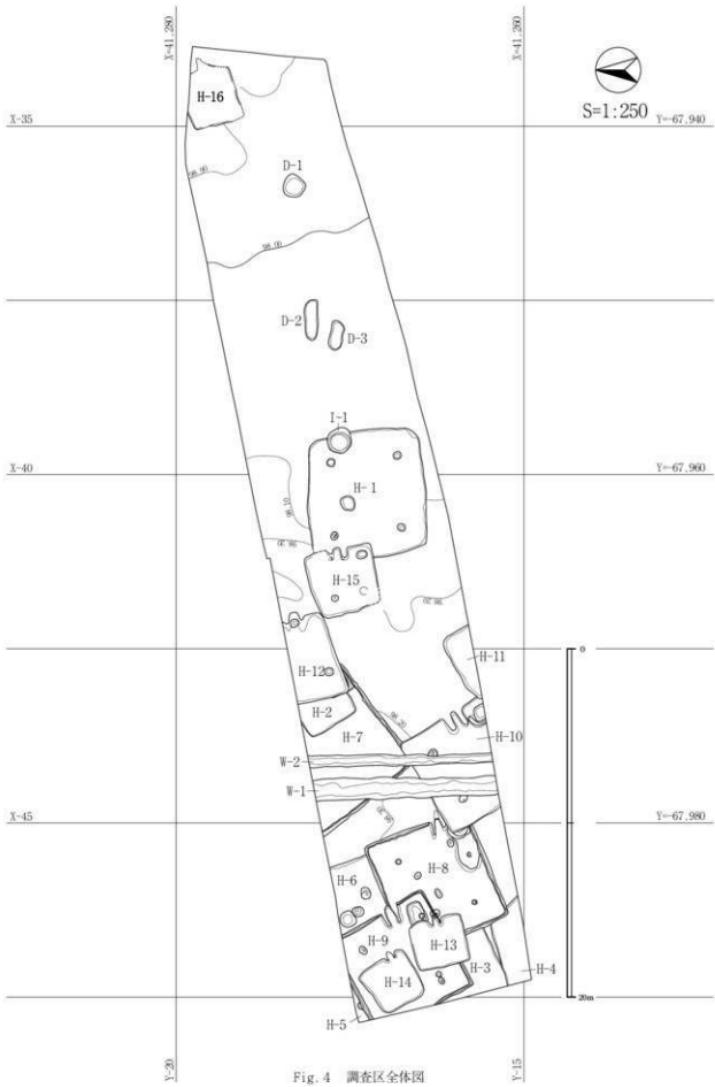


Fig. 4 調査区全体図



V 遺構と遺物

竪穴住居跡 16 軒、溝 2 条、井戸 1 基、土坑 3 基、その他(墓)1 基を検出し。以下は各遺構の概要である。

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig 5, PL 2・5)

位置 X-39 ~ -41, Y-16 ~ -18 グリッド 主軸方向 N-5°-W 規模 6.90 m × 7.47 m、壁現高 0.18 m。面積 (4153) m² 床面 ほぼ平坦で、硬化はやや弱い。炉 住居中央やや北に位置する。重複 H-15・I-1 と重複しており、新旧関係は本遺構→H-15→I-1 の順である。出土遺物 土師器壺・高杯・甕、輪羽口 時期 4世紀後半

H-2号住居跡 (Fig 6, PL 2・5)

位置 X-43, Y-17 ~ -18 グリッド 主軸方向 N-59°-E 規模 (3.31) m × 3.18 m、壁現高 0.71 m。面積 (4.68) m² 床面 平坦で、硬化は弱い。竈 不明。重複 H-7・H-12 と重複しており、新旧関係は本遺構→H-7→H-12 の順である。出土遺物 土師器壺 時期 5世紀中葉

H-3号住居跡 (Fig 6, PL 2・5)

位置 X-46・-47, Y-15・-16 グリッド 主軸方向 N-64°-E 規模 (3.68) m × (4.29) m、壁現高 0.14 m。面積 (6.26) m² 床面 ほぼ平坦で、硬化はやや弱い。竈 不明。重複 H-4・H-8・H-9・H-13 と重複しており、新旧関係は本遺構→H-4→H-8→H-9→H-13 の順である。出土遺物 土師器壺 時期 5世紀後半以前

H-4号住居跡 (Fig 6, PL 2・5)

位置 X-46・-47, Y-14・-15 グリッド 主軸方向 N-75°-E 規模 (4.87) m × (2.00) m、壁現高 0.80 m。面積 (6.59) m² 床面 ほぼ平坦で、硬化はやや弱い。竈 不明。重複 H-3・H-8 と重複しており、新旧関係は H-3→本遺構→H-8 の順である。出土遺物 土師器壺 時期 5世紀後半以前。

H-5号住居跡 (Fig 7, PL 2・5)

位置 X-47, Y-17 グリッド 主軸方向 不明。規模 (2.99) m × (0.92) m、壁現高 0.35 m。面積 (0.71) m² 床面 ほぼ平坦で、硬化は弱い。竈 不明。重複 H-9 と重複しており、新旧関係は本遺構→H-9 の順である。出土遺物 土師器壺 時期 5世紀後半以前

H-6号住居跡 (Fig 8)

位置 X-45・-46, Y-17 グリッド 主軸方向 N-70°-E 規模 (3.89) m × (3.05) m、壁現高 0.27 m。面積 (13.96) m² 床面 ほぼ平坦で、硬化はやや弱い。竈 不明。重複 H-8・H-9 と重複しており、新旧関係は本遺構→H-8→H-9 の順である。出土遺物 土師器壺・甕 時期 切り合い及び埋土遺物から 5世紀後半以前と思われる。

H-7号住居跡 (Fig 10, PL 2・5)

位置 X-42 ~ -45, Y-16 ~ -18 グリッド 主軸方向 N-51°-E 規模 (7.23) m × (7.06) m、壁現高



現高 0.60 m。面積 (26.00) m 床面 ほぼ平坦で、硬化はやや弱い。竈 不明。重複 H-2・H-10・H-12 及び W-1・W-2 を重複しており、新旧関係は H-2 → 本造構 → H-10・H-12 → W-1・W-2 の順である。出土遺物 土師器壺・高壺 時期 5世紀中葉～後半

H-8号住居跡(Fig13, PL 5)

位置 X-44～-46, Y-15～-17 グリッド 主軸方向 N-68°-E 規模 (6.89) m × (6.42) m、壁現高 0.36 m。面積 (29.76) m 床面 ほぼ平坦で、堅緻。竈 東壁の南寄りに位置する。全長 109.0cm、最大幅 41.4cm、構築材に粘土を用いる。重複 H-3・H-4・H-6・H-9・H-10・H-13 と重複しております。
新旧関係は H-3・H-4・H-6 → 本造構 → H-9・H-10 → H-13 の順である。出土遺物 土師器壺・壺・甕、須恵器 竈 時期 5世紀後半

H-9号住居跡(Fig 7, PL 3・6)

位置 X-46～-47, Y-15～-17 グリッド 主軸方向 N-59°-E 規模 (6.41) m × (6.39) m、壁現高 0.33 m。面積 (17.75) m 床面 ほぼ平坦で、ローム小ブロックを含む貼床を施す。硬化はやや弱い。
竈 東壁の南寄りに位置する。全長 126.0cm、最大幅 53.4cm。重複 H-3・H-5・H-6・H-8・H-13・H-14 と重複しております、新旧関係は H-3・H-5・H-6 → H-8 → 本造構 → H-13・H-14 の順である。
出土遺物 土師器壺・高壺・甕、白玉 時期 5世紀後半～6世紀前半

H-10号住居跡(Fig 9, PL 3・6)

位置 X-43～-45, Y-15～-16 グリッド 主軸方向 N-56°-E 規模 (6.22) m × (5.54) m、壁現高 0.62 m。面積 (23.95) m 床面 東から西へ緩やかに傾斜する。ローム小ブロックを含む貼床を施し、硬化はやや強い。竈 東壁中央に位置する。全長 117.3cm、最大幅 42.3cm、構築材に粘土を用いる。重複 H-7・H-8・H-11 及び W-1・W-2 を重複しております、新旧関係は H-7・H-8 → 本造構 → H-11 → W-1・W-2 の順である。出土遺物 土師器壺・高壺・管玉 時期 6世紀前半

H-11号住居跡(Fig 8, PL 3)

位置 X-42～-43, Y-15～-16 グリッド 主軸方向 N-61°-E 規模 (4.10) m × (1.88) m、壁現高 0.32 m。面積 (3.90) m 床面 ほぼ平坦で、硬化は弱い。竈 不明。重複 H-10 と重複しております、新旧関係は H-10 → 本造構の順である。出土遺物 土師器高壺 時期 6世紀以降

H-12号住居跡(Fig11, PL 3・6)

位置 X-42～-43, Y-17～-18 グリッド 主軸方向 N-77°-E 規模 (5.24) m × (3.05) m、壁現高 0.21 m。面積 (11.05) m 床面 ほぼ平坦でやや堅緻。ローム小ブロックを含む貼床を施す。竈前面に硬化面あり。竈 東壁中央に位置する。全長 99.0cm、最大幅 63.6cm、構築材に粘土を用いる。重複 H-2 及び H-7 を重複しております、新旧関係は H-2 → H-7 → 本造構の順である。出土遺物 土師器壺 時期 6世紀前半～中葉

H-13号住居跡(Fig12, PL 3・6)

位置 X-46～-47, Y-15～-16 グリッド 主軸方向 N-76°-E 規模 3.04 m × 3.12 m、壁現高 0.19 m。



面積 (7.33) m 床面 ほぼ平坦で、硬化はやや弱い。竈前面に若干の硬化面あり。 竈 東壁の中央に位置する。全長72.8cm、最大幅35.2cm、構築材に粘土を用いる。 重複 H-3・H-8・H-9と重複しており、新旧関係はH-3→H-8→H-9→本遺構の順である。 出土遺物 土師器壺・壺。壺は混入遺物と思われる。

時期 6世紀前半～中葉

H-14号住居跡 (Fig11, PL 3・6)

位置 X-46・Y-17・17グリッド 主軸方向 N-57°-E 規模 (3.01)m×3.05m、壁現高0.18m。 面積 (7.07) m 床面 ほぼ平坦で、硬化はやや弱い。 竈 東壁やや南よりに位置するが、擾乱により上部は崩壊している。 重複 H-9と重複しており、新旧関係はH-9→本遺構の順である。 出土遺物 土師器壺・壺 時期 6世紀後半 備考 H-5と重複している可能性がある (H-5→H-9→本遺構)。

H-15号住居跡 (Fig14, PL 3・4・6)

位置 X-41、Y-17・18グリッド 主軸方向 N-81°-E 規模 (3.93)m×(3.97)m、壁現高0.25m。 面積 (11.88) m 床面 ほぼ平坦で非常に堅緻。 竈 壁現高0.25m 東壁中央に位置する。全長76.8cm、最大幅48.6cm、構築材に粘土を用いる。 重複 H-1と重複しており、新旧関係はH-1→本遺構の順である。 出土遺物 土師器壺、石製模造品 時期 6世紀後半～7世紀

H-16号住居跡 (Fig15・PL 4)

位置 X-34、Y-19グリッド 主軸方向 N-77°-E 規模 (3.95)m×(3.18)m、壁現高0.06m。 面積 (8.59)m 床面 ほぼ平坦でやや堅緻。 竈 不明(東か)。 出土遺物 土師器壺・壺が出土したが、いずれも小破片のため図示には至らなかった。 時期 埋土及び出土遺物から6世紀後半～7世紀か。 備考 住居を寸断するように著しい擾乱を受けているが、住居東側の床面直上に口縁部を下にした壺を検出した。原位置を保っていると仮定すれば、竈袖部になる可能性も考えられる。

(2) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig16)

位置 X-44、Y-15～-18グリッド 主軸方向 N-179°-E 長さ 10.69m 最大幅 上端1.36m、下端0.71m。 深さ 0.15m 形状等 台形 重複 H-7・H-9と重複しており、新旧関係はH-9→H-7→本遺構の順である。 出土遺物 土師器壺、須恵器壺、陶磁器等が出土したが、いずれも小破片のため図示には至らなかった。 時期 埋土中の遺物より、近世以前と考えられる。

W-2号溝跡 (Fig16, PL 6)

位置 X-44、Y-15～-18グリッド 主軸方向 N-179°-E 長さ 10.66m 最大幅 上端0.69m、下端0.36m。 深さ 0.39m 形状等 台形 重複 H-7・H-9と重複しており、新旧関係はH-9→H-7→本遺構の順である。 出土遺物 陶磁器壺 時期 埋土中の遺物より、近世以前と考えられる。

(3) 井戸

I-1号井戸跡 (Fig15・PL 4)

位置 X-39、Y-17グリッド 形状等 円形。上幅(1.45)×(1.25)m、深さ(2.18)m。 重複 H-16と重複しており、新旧関係はH-16→本遺構の順である。 出土遺物 土師器壺・高壺・壺、須恵器壺等が出土したが、



流れ込みと思われる。また、いずれも小破片のため図示には至らなかった。 時期 切り合ひ及び埋土から、近世以降と考えられる。 備考 深さは、現状よりさらに 1.5 m 以上深くなることを現地で確認したが、安全面等を考慮し、途中で発掘を停止している。

(4) 土坑

土坑については、Tab. 2 の土坑計測表を参照のこと。

(5) その他

X-1号跡 (Fig. 9 他・PL 4・6)

位置 X-43, Y-15 グリッド 形状等 斜面台形。深さ (0.25) m。重複 H-6・H-7 と重複しており、新旧関係は H-7 → H-6 → 本遺構の順である。出土遺物 菓片、古銭 時期 埋土中の遺物より、中世以降と考えられる。備考 調査区南壁での先行トレンチ調査による掘下げにより損壊させてしまい、平面形を確認することはできなかった。しかしトレンチ幅等を考慮すると、主体は調査区外南側へ広がるものと思われる。埋土は砂質土を主体とし、焼土等は認められない。出土遺物から中世以降の葬送に関する遺構と考えられる。なお、出土した古銭は織維質(織布)が付着し、複数枚を纏めていたと思われるが今回の調査では 1 枚のみの確認である。織布付着のため、銭種は不明である。

Tab. 2 土坑計測表

遺構名	位置	長軸	短軸	深さ	形状	出土遺物	備考
D-1	X35・36, Y18	1.25	1.24	0.46	橢円形		
D-2	X37・38, Y17・18	1.69	0.84	0.17	橢円形		
D-3	X37・38, Y17	2.29	0.81	0.20	橢円形		

Tab. 3 出土遺物観察表

H-1

番号	出土位置	種別、器形	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地質	構成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	床面直上	土罐器 高柄	-	-	(4.2)	石質	口: 黒・赤色斑 底: 黄色	良好	内面糊付コナガ、口以下焼成のため不明。トゲキホト	焼成のみ、糊付欠損
2	床面直上	土罐器 直	(26.3)	-	(2.8)	口: 黑・赤色斑 底: 黄色	良好	明黄色 内面糊付コナガ、底以下焼成のため不明。	口縁部欠	
3	床面直上	土罐器 S平底	(14.7)	-	(4.6)	口: 黑・赤色斑 底: 黄色	良好	口内糊付コナガによるコナガ、底以下コナガ。 内面糊付コナガによるコナガ、口以下コナガ。	口縁4・S底2層薄	
4	床面直上	土罐器 宽	-	糊付器	(5.8)	口: 黑・黄 底: 黄色	良好	明黄色 内面糊付コナガ、底以下コナガ。	糊付4・S底2層薄	
5	土質	土罐器 ワイド	-	-	(3.3)	口: 黑・赤色斑 底: 黄色	良好	内面糊付コナガ、内面コナガ。 内面糊付コナガ、内面コナガ。	糊付	

H-2

番号	出土位置	種別、器形	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地質	構成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	床面直上	土罐器 高柄	16.1	-	(6.6)	粘土質	口: 黑色斑 底: 黄色	良好	外側糊付コナガ、底以下糊付。全体に焼成。 内面糊付コナガ、底以下糊付。	糊付は口完存

H-3

番号	出土位置	種別、器形	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地質	構成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	床面直上	土罐器 宽	(19.6)	-	(9.6)	口: 黑・赤色斑 底: 黄色	良好	黒褐色 内面糊付コナガ、口以下コナガ。	口縁4・底2層薄	
番号	出土位置	種別、器形	大きさ(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地質	構成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
2	床面直上	石製品 二重輪扁	13.3	3.5	4.2	安山岩	-	-	底2.1	口縁一列孔、底面1列孔+2列孔の輪状孔、側面に斜を持たせたとして利用か? (6眼)

H-4

番号	出土位置	種別、器形	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地質	構成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	床面直上	土罐器 細	10.6	4.8	3.5	口: 黑・赤色斑 底: 黄色	良好	良好	外側糊付コナガ、底以下糊付。	糊付は口完存

H-5

番号	出土位置	種別、器形	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地質	構成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	床面直上	土罐器 高柄	(22.2)	-	(5.0)	口: 黑・赤色斑 底: 黄色	良好	口内糊付コナガ、底以下糊付。	底2.1・内2層	
2	床面直上	土罐器 細	-	-	(6.6)	口: 黑・赤色斑 底: 黄色	良好	明黄色 内面糊付コナガ。	糊付2・内2層	

H-6

番号	出土位置	種別、器形	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地質	構成	色調	基部、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	床面直上	土罐器 細	-	(2.6)	(10.6)	石質	糊付	糊色	外側糊付コナガ。	糊付2・内2層
2	床面直上	土罐器 宽	(18.8)	-	(3.5)	口: 黑・赤色斑 底: 黄色	良好	口内糊付コナガ、底以下糊付。	糊付2・内2層・底片面	



H-7

番号	出土位置	種別、基準	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土色	構成	色調	特徴、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	床面土上	土器部 手	(14.3)	丸底	(6.4)	白・黒色斑	直好	江戸・黄褐色	内面部口縁部ヨコナヂ。底ハラナゲ底スピナビ。	3/4残存
2	床面土上	土器部 手	13.9	-	4.3	赤茶小粒、瓦灰	直好	褐色	外面部ハラケ底スピナビ。	完形
3	床面土上	土器部 手	21.3	-	7.4	白・褐褐色	直好	褐色	内面部ミガキ。口部腰帶を有つ。以下ミガキ後二条の泥輪を追加。且つ底部泥輪。	环形4/3残存
4	床面土上	土器部 高杯	18.9	-	9.7	砂利斑、白・黒色斑	直好	江戸・黄褐色	内面部ミガキ。	环形のみ口部定形
5	床面土上	土器部 高杯	18.5	-	6.5	白・黒・褐色斑	直好	江戸・黄褐色	内面部ミガキ。	环形のみ口部定形

H-8

番号	出土位置	種別、基準	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土色	構成	色調	特徴、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	床面土上	土器部 手	(13.1)	-	(3.6)	白色粘土	直好	湖面色	内面部ヨコスジカツナ。底ハラナゲ底スピナビ。内面部口縁部ヨコナヂ。白砂利付付。底有1周(「工段」)。	1/3残存
2	床面土上	土器部 手	14.4	丸底	5.4	白・赤色斑	直好	褐色	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。	ほぼ定期
3	床面土上	土器部 手	13.7	丸底	5.3	白色粘土、石斑	直好	明水面褐色	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。	ほぼ定期
4	床面土上	土器部 手	13.0	丸底	5.3	白・赤色斑	直好	明水面褐色	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。	1周環一全体一部欠損
5	床面土上	土器部 手	13.1	丸底	5.4	白・赤色斑	直好	褐色	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。	4/5残存
6	床面土上	土器部 手	13.6	丸底	5.5	白・赤色斑	直好	明水面褐色	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。	3/4残存
7	床面土上	土器部 手	13.9	丸底	(3.5)	白色粘土、黑色斑	直好	褐色	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。	3/4残存
8	床面土上	土器部 手	14.7	丸底	6.4	白・黑色斑	直好	明水面褐色	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。	2/3残存【壺環状模】
9	床面土上	土器部 手	13.3	6.0	6.5	白・赤色斑	直好	江戸・黄褐色	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。	完形。底部腰帶付
10	床面土上	土器部 手	8.6	4.6	13.7	白色粘土、黑色斑	直好	明水面褐色	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。
11	床面土上	土器部 手	15.2	-	(10.0)	白・黑・褐色斑	直好	黄褐色	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。	1周・一部
12	床面土上	土器部 手	13.0	-	(11.2)	白色粘土、黑色斑	直好	赤色	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。	1周・一部。内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。
13	床面土上	土器部 手	-	7.2	(9.4)	白・赤色斑	直好	灰水面褐色	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。	脚下一部破損
14	床面土上	土器部 手	(16.0)	5.6	30.3	白色粘土、黑色斑	直好	江戸・明水面褐色	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。	内・外底部腰帶
15	床面土上	土器部 手	(17.1)	7.2	28.2	白・黑・褐色斑	直好	褐色	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。	1周・一部上部少部分
16	床面土上	土器部 手	17.7	6.1	27.2	白・黑・褐色斑	直好	明水面褐色	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。	内・外底部腰帶
17	床面土上	土器部 手	(16.6)	-	(26.7)	白・黑・褐色斑	直好	明水面褐色	内面部ヨコスジカツナ。(「手取から」の概念)。口下ハラケスピナビ。	1周・一部。体部は手取から
18	床面土上	土器部 手	15.8	-	(26.1)	白・黑・褐色斑	直好	明水面褐色	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。	脚下・一部。内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。

H-9

番号	出土位置	種別、基準	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土色	構成	色調	特徴、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	床面土上	土器部 手	13.6	丸底	5.2	白・赤色斑	直好	褐色	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。	3/4残存
2	床面土上	土器部 手	14.2	-	5.1	金合色、黑色斑	直好	明水面褐色	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。	1/2残存
3	床面土上	土器部 高杯	-	-	(6.4)	白・赤・褐色	中好	褐色	内面部ハラケスピナビ。	脚部
4	床面土上	土器部 高杯	-	-	(5.7)	白色粘土、黑色斑	中好	灰水面褐色	内面部ヨコスジカツナ。	脚部
5	獨立	土器部 高杯	-	-	(5.4)	白色粘土、黑色斑	中好	明水面褐色	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。	1周環3/4残存

H-10

番号	出土位置	種別、基準	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土色	構成	色調	重さ(g)	特徴、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	床面土上	土器部 手	(12.6)	丸底	(3.8)	赤・赤色斑	直好	江戸・赤褐色	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。	1/4残存	
2	床面土上	土器部 手	(13.7)	-	5.7	金合色、黑色斑	直好	明水面褐色	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。	1周・一部上部少部分	
3	床面土上	土器部 手	-	-	(2.0)	赤・赤色斑	中好	明水面褐色	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。	1周・一部	
4	床面土上	土器部 高杯	(9.4)	-	(6.4)	赤色粘土、黑色斑	直好	明水面褐色	内面部ハラケスピナビ。	体部のみ3/4残存	
番号	出土位置	種別、基準	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土色	構成	色調	重さ(g)	特徴、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
5	床面土上	石器品 玉	0.6	0.5	0.25	透明白	-	-	-	空球形。	完存

H-11

番号	出土位置	種別、基準	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土色	構成	色調	特徴、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	床面土上	土器部 手	-	-	(3.1)	白・赤・褐色	直好	江戸・黄褐色	内面部ミガキ。内面部底にヨコナヂ。	脚部一部・脚部上部

H-12

番号	出土位置	種別、基準	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土色	構成	色調	特徴、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	床面土上	土器部 手	11.4	丸底	3.5	白・黒色斑	直好	褐色	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。	完形。底部腰帶付
2	床面土上	土器部 手	(11.4)	丸底	3.6	白・赤色斑	直好	明水面褐色	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。	3/5残存

H-13

番号	出土位置	種別、基準	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	土色	構成	色調	特徴、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	床面土上	土器部 手	11.9	丸底	3.8	赤色斑、黑色斑	直好	褐色	内面部ヨコスジカツナ。口下ハラケスピナビ。	1周2/3・少欠損



番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基物、底・側形、文様等の特徴	残存状況、備考
2	床面直上	土縁器 砥	(12.5)	8.4cm	3.7	白・黒・褐色斑 黄色	良好	褐色	内側1面底部コナギ、底アラカケリ。 内側1面底部コナギ、底アラカケリ。内側スビオサム。	3/4保存
3	床面直上	土縁器 砥	(10.6)	8.4cm	3.9	白・黒・褐色斑 白色鉢脚	良好	褐色	内側1面底部コナギ、底アラカケリ。 内側1面底部コナギ、底アラカケリ。内側スビオサム。	1/4回復/2欠損
4	床面直上	土縁器 砥	-	-	(5.4)	白・黒・褐色斑 白色	良好	明赤褐色	外側有目1面。ハタエ状直角2上部斜交斜2つ(矢尚絞2段)。底アラカケリ。ハタエ状直角2上部斜交斜2つ(矢尚絞2段)。底アラカケリ。ハタエ状直角2上部斜交斜2つ(矢尚絞2段)。	断面片
H-14										
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基物、底・側形、文様等の特徴	残存状況、備考
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基物、底・側形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土縁器 砥	15.3	-	(3.4)	赤色斑	良好	褐色	内側1面底部コナギ、底アラカケリ。 内側1面底部コナギ、底アラカケリ。	2/3保存
2	床面直上	土縁器 砥	(20.6)	-	(7.6)	白色斑、黒斑	良好	明赤褐色	内側1面底部コナギ、底アラカケリ。 内側1面底部コナギ。	1/4回復片
H-15										
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基物、底・側形、文様等の特徴	残存状況、備考
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基物、底・側形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土縁器 砥	(11.4)	8.4cm	(3.5)	赤色斑	良好	褐色	内側1面底部コナギ、底アラカケリ。 内側1面底部コナギ、底アラカケリ。	1/4回復-1/3回存
2	陶土	土縁器 砥	(11.0)	8.4cm	3.5	赤色斑、黒斑等、チャート	良好	褐色	内側1面底部コナギ、底アラカケリ。 内側1面底部コナギ、底アラカケリ。	1/4回-1/3回-1/4回
番号	出土位置	種別、器種	高さ(cm)	底径(cm)	色調	地土	造成	基物、底・側形、文様等の特徴	残存状況、備考	
3	陶土	瓦質横溝瓦	(2.4)	(1.9)	0.25	緑泥灰岩	良好	-	表面青、上部一左側斜、上部斜削斜、半丸等欠損。	破片
D-2										
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基物、底・側形、文様等の特徴	残存状況、備考
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基物、底・側形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	陶土	陶面器 砥	(11.3)	(6.2)	(2.6)	粘土質	良好	同白色	内側底部コナギによるコナギ。	1/3内存
W-1										
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基物、底・側形、文様等の特徴	残存状況、備考
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基物、底・側形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	陶土	船形	(30.2)	(27.4)	(3.4)	白・黒・褐色斑	良好	にふい・黄褐色	内側1面底部コナギ、底アラカケリ。	1/4回-1/3回存
2	陶土	船形	-	(25.0)	(2.4)	黒・白・共色斑	良好	黑色	内側スビナギ、底部ヘラカケリ。	内側スビナギ、底部ヘラカケリ。
W-2										
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基物、底・側形、文様等の特徴	残存状況、備考
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	造成	色調	基物、底・側形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	陶土	陶面器 砥	(11.8)	7.0	7.4	粘土質	良好	同白色	外側1面全体コロによるコナギ、底部ヘラカケリ。内側スビナギ。	1/4回2/3欠損
X-1										
番号	出土位置	種別、器種	名前	昭和年代	材質	外径	厚径	深さ	重量	備考
番号	出土位置	種別、器種	名前	昭和年代	材質	外径	厚径	深さ	重量	備考
1	陶土	不明	-	-	-	鋼	2.6cm	0.5cm	1.1cm	3.4g 磨き打削



VI まとめ

(1) 住居跡について

今回の発掘調査により、堅穴住居跡 16 軒を検出した。いずれも出土遺物から古墳時代の住居跡と比定でき、時期的に大別すると古墳時代前期 1 軒 (H-1)、中期 7 軒 (H-8 ほか)、後期 5 軒 (H-13 ほか) である。なお、出土遺物が希薄なことや小破片であるため、土器による詳細な時期決定の困難な住居跡が 2 軒 (H-11、16) あるが、切り合い関係や埋土等を考慮すれば、いずれも古墳時代に属する住居跡と思われる。

周辺遺跡では今までの調査成果により古墳時代前期及び後期に属する住居跡が多く確認されているが、古墳時代中期に属する住居跡はほとんど見られない。今回の調査で古墳時代中期に属する住居跡及びそれに伴う一括土器群を確認できたことは大きな成果と言える。

古墳時代中期の土器編年については坂口氏の優れた論考があり（坂口 1999）、それを援用すると、当遺跡で出土した中期の土器はおむね、坂口編年 3 ~ 4 期の 5 世紀後半を中心とする時期に比定できる。空白であった古墳時代中期の遺構を確認したことは、上述したように当遺跡周辺が古墳時代を通して連続と集落が展開し、生活が営まれていたことを示し、また、H-8 を中心として出土した一括土器群は当該期の土器編年研究に良好な資料を提供するものである。

また、調査区内では住居跡の分布に粗密を見出すことができる。本遺跡は微高地に営まれた遺跡であるが、調査区周辺は東から西にかけて緩やかに高くなる。標高の低い調査区東半での住居跡検出数は 1 軒のみであり、他は調査区西半に密集した分布を示す。この粗密については傾斜に起因するものと思われ、より標高の高い調査区西半が遺跡の主体部になるものと考えられる。さらに周辺の地形を考慮した上で本遺跡を含めた周辺遺跡の展開を推察すると、微高地の広がる本遺跡以西に集落跡が広がる可能性が高いように思われる。

(2) 周辺遺跡との関連と土地利用の復元

本遺跡の周辺には古墳・奈良・平安の住居跡の他、平安時代の水田跡が多く確認され、立地や周辺地形から当時の土地利用状況の復元が試みられており、その中で微高地を集落として、低地を水田として利用していたことが明らかになってきている。そして高橋・高坂氏は地形的な観察を含め、集落を大きく 2 つのもとまとめて集落群①と集落群②に分け、水田跡を水田①及び②に大別し、周辺の土地利用の在り方について積極的なアプローチを試みている（高橋・高坂 2006, Fig. 2）。

これらを鑑みると、当遺跡は住居跡を中心とする集落遺跡であり、周辺遺跡で確認された住居跡と同様に微高地上の立地となっている。地形的には集落群②と同一の微高地に立地すると思われる。しかし同一微高地と仮定した上で、本遺跡は標高約 98.0m、集落群②が標高約 95.8m(六供下堂木Ⅲ遺跡 B 地区) と約 2 m の標高差があること、本遺跡は古墳時代中期から後期を中心とするに対し、集落群②は奈良・平安時代を中心とする点等において、同一の集落群として捉えるには隔たりが大きいようと思われる。そこで今回の調査地周辺を新たに集落群③として設定し、本遺跡周辺には古墳時代中期から後期を中心とする集落群が広がる可能性を提示しておきたい（上述のように本遺跡周辺は東から西に緩やかに高くなるため、集落の中心はさらに本遺跡から西へ広がる可能性が高い）。以上のことから周辺遺跡との関連と合わせて当時の土地利用を復元すると、古墳時代を中心とする集落が集落群③で営まれた後、集落の拠点が南東に移り、奈良・平安時代を中心とする集落群②が形成されたものと考えられる。



(3) まとめ

今回の調査により古墳時代全般の住居跡を検出し、特にこれまで確認されていなかった古墳時代中期の住居を検出したことは大きな成果である。また、既往の調査成果と併せ、周辺遺跡との関連の中で、大きなまとまりとしてではあるが当時の土地利用の一端が明らかになった。しかしながら、あくまでも地形的な観察の中での推察も含んでおり、今後の発掘調査により全容が解明されることが期待される。

【参考文献】

- 坂口 一 1987「群馬県における古墳時代中期の土器の編年－共伴関係による土器型式組列の検討－」『研究紀要－4－』群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 坂口好孝・佐藤和則 1997「六供下堂木Ⅱ遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 吉田聖二・林 信也 1999「六供中京安寺遺跡・六供下堂木Ⅲ遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 坂口 一 1999「群馬県における古墳時代中期の土器の様相－荒砥北三本堂遺跡の出土土器を中心として－」『東国土器研究 第5号』東国土器研究会
- 吉田聖二・高山 剛 1999「六供東京安寺遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 高橋 亨・高坂麻子 2006「六供遺跡群」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 小鶴 尚・前田和昭 2006「文京町No.1遺跡」前橋市教育委員会

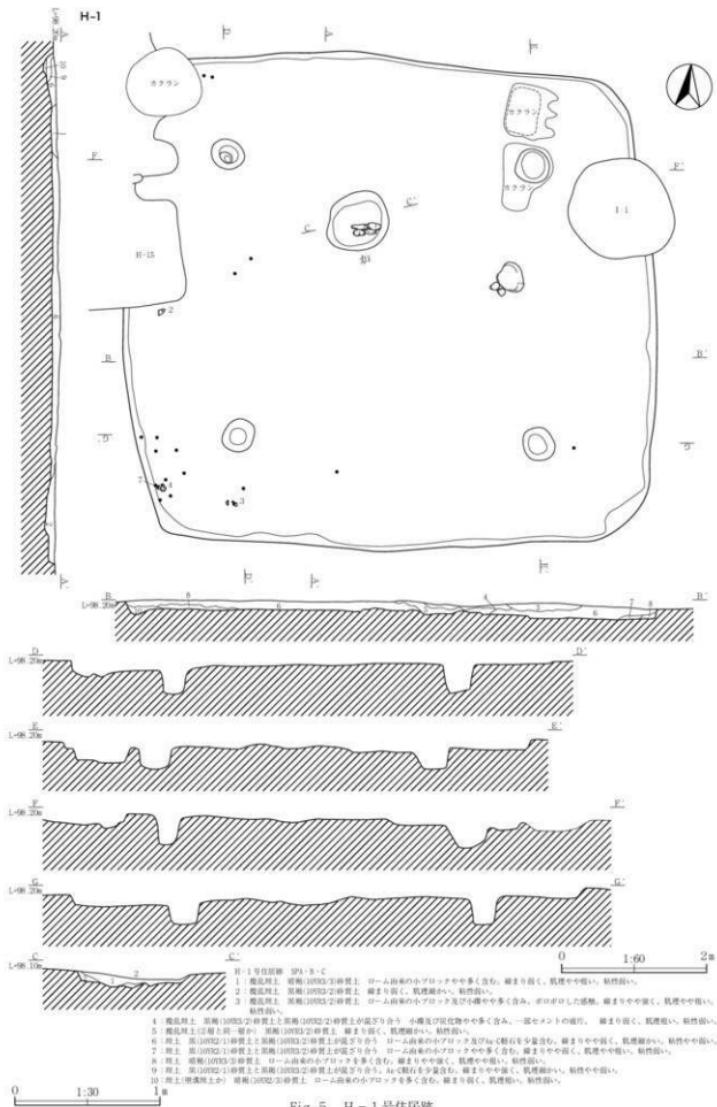
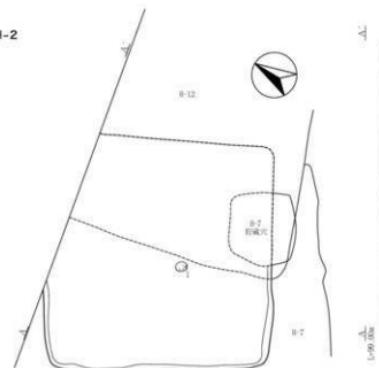


Fig. 5 H-1号住居跡



H-2

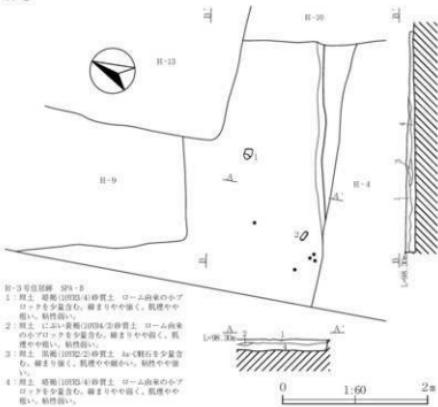


A'

H-2号住居跡 SP3
1-1. 地下盤 造成土、礫・パラス等多く含む。
1-2. 地下盤上部 造成土、ロームの小プロックを多
く含む。礫や砂を含む。
1-3. 地下盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、並列(10D2/3)の砂質土
が混在する。緑まりやや薄く、肌理やや細い。粘性弱い。
2-1. 地上盤上部 黒褐色(10R2/3)の砂質土、並列(10D2/3)
の砂質土が混在する。緑まりやや薄く、肌理やや細い。
2-2. 地上盤上部 黒褐色(10R2/3)の砂質土、緑まりやや薄く、肌理
やや細い。粘性弱い。
2-3. 地上盤上部 黒褐色(10R2/3)の砂質土、緑まりやや薄く、肌理
やや細い。粘性弱い。
2-4. 地上盤上部 黒褐色(10R2/3)の砂質土、ロームの小プロ
ックを多量含む。緑まりやや薄く、肌理やや細い。
2-5. 地上盤上部 黒褐色(10R2/3)の砂質土、一層及び
レジダ等を含む多く含む。緑まりやや薄く、肌理やや細い。
3. 地上盤上部 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石をやや多く含
む。緑まりやや薄く、肌理やや細い。粘性弱い。
4. 地上盤上部 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石をやや多く含
む。緑まりやや薄く、肌理やや細い。粘性弱い。
5. 地上盤上部 黒褐色(10R2/3)の砂質土を主とする。ロームの小
プロックを多量含む。緑まりやや薄く、肌理やや細い。粘性
弱い。

0 1.60 2m

H-3

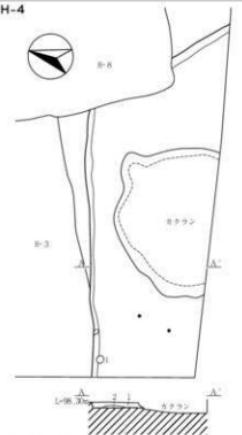


A'

H-3号住居跡 SP3
1. 地下盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、緑まりやや薄く、肌理やや細い。
2. 地下盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土を中心とする。Lo-Cr石を含む。ロームの小プロックをやや多く含む。緑
まりやや薄く、肌理やや細い。
3. 地上盤上部 黒褐色(10R2/3)の砂質土、緑まりやや薄く、肌理やや細い。
4. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、ロームの小プロックを含む。緑まりやや薄く、肌理やや細い。
5. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土を中心とする。Lo-Cr石を含む。緑まりやや薄く、肌理やや細い。粘性
弱い。

6. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を多量含む。緑まりやや薄く、肌理やや細い。粘性弱い。
7. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑まりやや薄く、肌理やや細い。
8. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑まりやや薄く、肌理やや細い。粘性弱い。
9. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑まりやや薄く、肌理やや細い。粘性弱い。
10. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、緑まりやや薄く、肌理やや細い。粘性弱い。
11. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑まりやや薄く、肌理やや細い。粘性弱い。
12. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑まりやや薄く、肌理やや細い。粘性弱い。
13. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、緑まりやや薄く、肌理やや細い。粘性弱い。
14. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑まりやや薄く、肌理やや細い。粘性弱い。
15. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑まりやや薄く、肌理やや細い。粘性弱い。
16. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑まりやや薄く、肌理やや細い。粘性弱い。
17. 地上盤上部 黒褐色(10R2/3)の砂質土、緑まりやや薄く、肌理やや細い。粘性弱い。
18. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑まりやや薄く、肌理やや細い。粘性弱い。
19. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑まりやや薄く、肌理やや細い。粘性弱い。

H-4



A'

H-4号住居跡 SP3
1. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、緑まりやや薄く、肌理やや細い。
2. 地上盤上部 ロームの小量化土層。

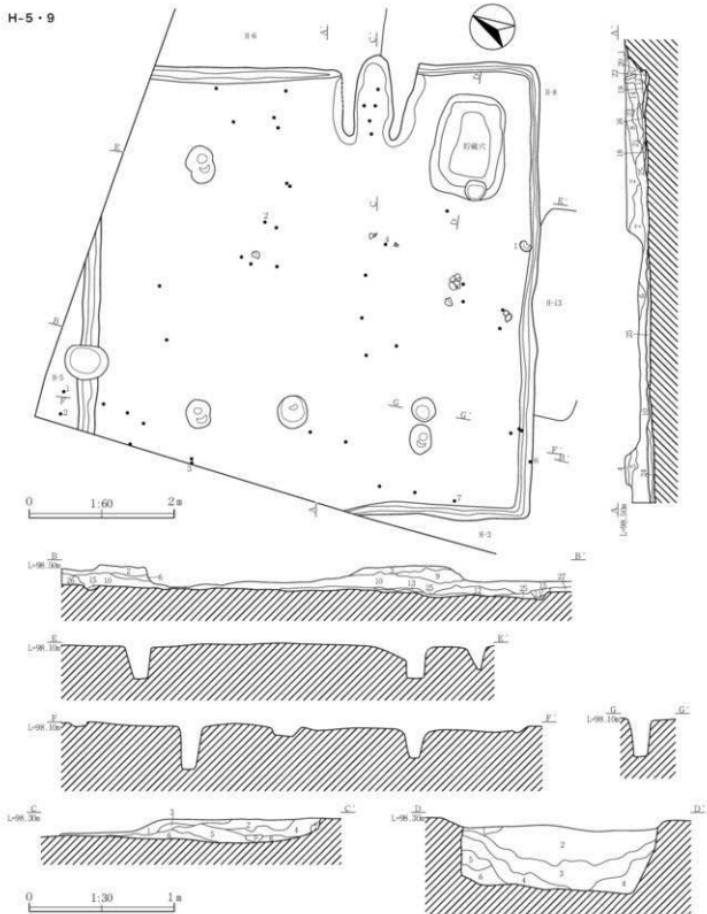
0 1.60 2m

3. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、緑まりやや薄く、肌理やや細い。
4. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑
まりやや薄く、肌理やや細い。
5. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑
まりやや薄く、肌理やや細い。
6. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑
まりやや薄く、肌理やや細い。
7. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑
まりやや薄く、肌理やや細い。
8. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑
まりやや薄く、肌理やや細い。
9. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑
まりやや薄く、肌理やや細い。
10. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑
まりやや薄く、肌理やや細い。
11. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑
まりやや薄く、肌理やや細い。
12. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑
まりやや薄く、肌理やや細い。
13. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑
まりやや薄く、肌理やや細い。
14. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑
まりやや薄く、肌理やや細い。
15. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑
まりやや薄く、肌理やや細い。
16. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑
まりやや薄く、肌理やや細い。
17. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑
まりやや薄く、肌理やや細い。
18. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑
まりやや薄く、肌理やや細い。
19. 地上盤 黒褐色(10R2/3)の砂質土、Lo-Cr石を少量含む。緑
まりやや薄く、肌理やや細い。

Fig. 6 H-2 ~ 4号住居跡



H-5・9



H-5号住居跡 SP

- 1 墓葬上、に点打痕(10936-4)砂質土を中心とする 電撃土の堆積・堆積土、縫まり強く、粒度細かい。粘性高い。
- 2 墓葬上、に点打痕(10936-4)砂質土を中心とする 電撃土の堆積・堆積土、縫まりやや弱く、粒度細かい。粘性高い。
- 3 墓葬上、灰褐色(10932-2)砂質土を中心とし、再び(10936-4)砂質土を中心とする電撃土の堆積・堆積土、縫まりやや弱く、粒度細かい。粘性高い。
- 4 墓葬上、に点打痕(10935-3)砂質土を中心とし、再び(10934-4)砂質土を含む ローム表面のアプローチ部分、縫まりやや弱く、粒度細かい。粘性高い。
- 5 墓葬上、に点打痕(10934-4)砂質土を中心とし、再び(10934-4)砂質土を含む ローム表面のアプローチ部分、縫まりやや弱く、粒度細かい。粘性高い。
- 6 墓葬上、第10932-2(1)砂質土、堆積痕跡(10936-4)砂質土を中心とする電撃土の堆積性土、縫まりやや弱く、粒度細かい。粘性高い。
- 7 墓葬上、第10932-2(1)砂質土、堆積痕跡(10936-4)砂質土を中心とする電撃土の堆積性土、縫まりやや弱く、粒度細かい。粘性高い。

Fig. 7 H-5・9号住居跡

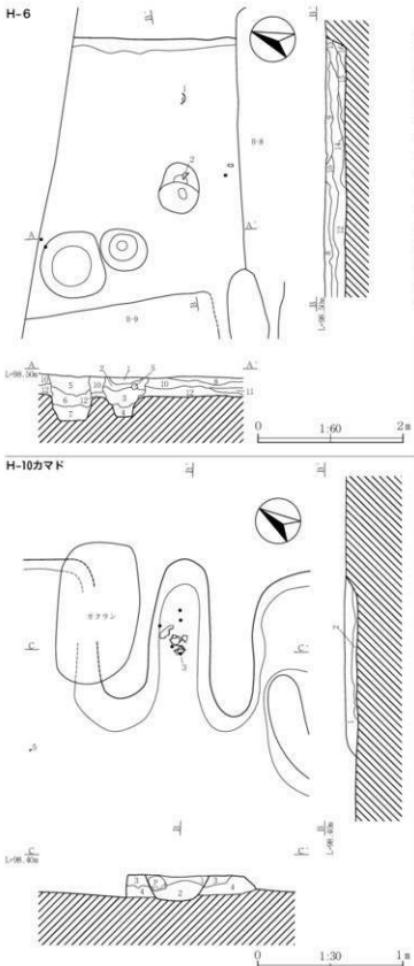


Fig. 8 H-6·11号住居跡



H-10

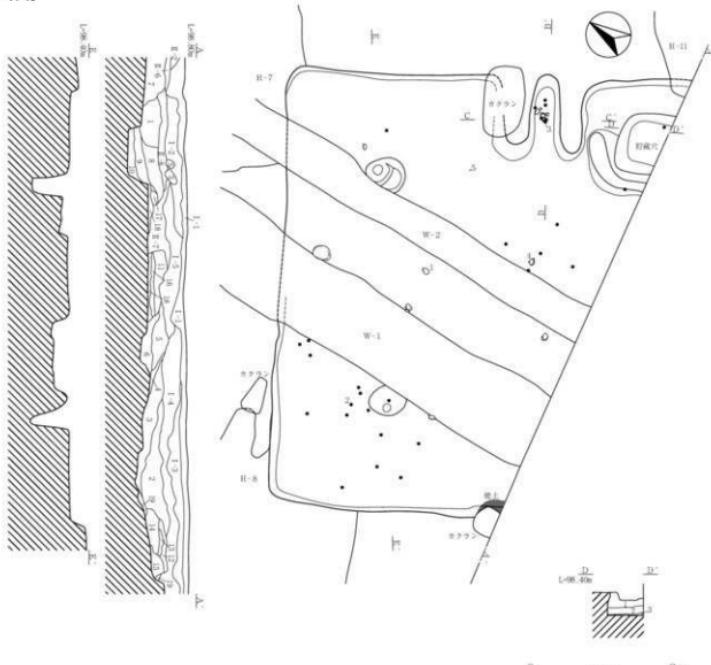


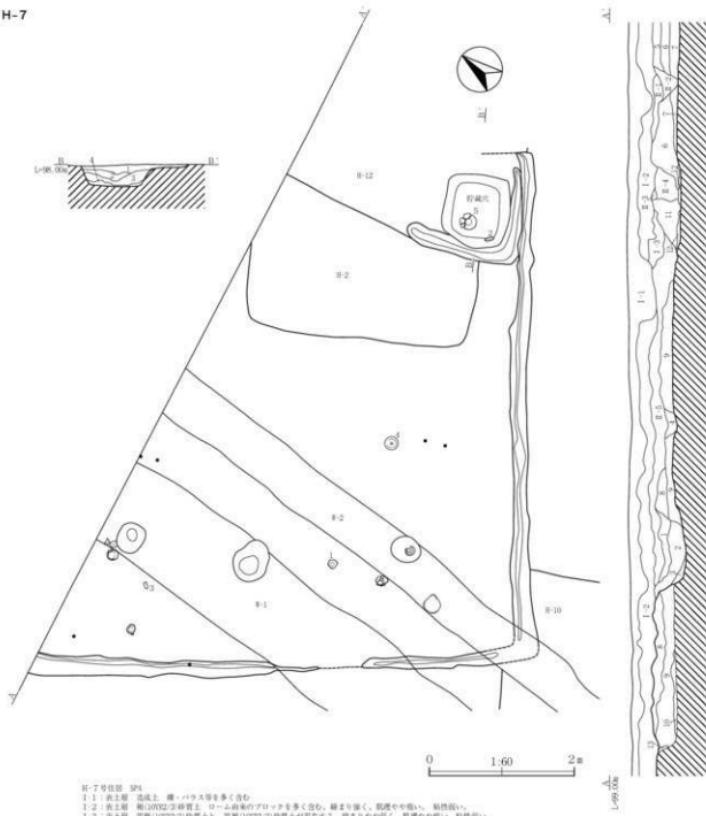
図-10号住居跡（JPA）
T-1 土上層 高成土 壤・バラス等を多く含む。

H-10位位置のIPD
1：絶えず、苦痛(10/92)⇒精神的負担を呈示。一縦まやりや聞く、肌理感あり。粘性弱い。
2：絶えず、苦痛(10/92)⇒精神上、1題と見るが、やや肌理感なく、ボンボンした感触。縦まやり強く、肌理や触感か。粘性弱い。

3：粗土 黒(山形県)：砂質土 ローム由来の小ブロックをやや多く含む。緑よりやや弱く、肌理やや粗い。粘性やや強い。



H-7



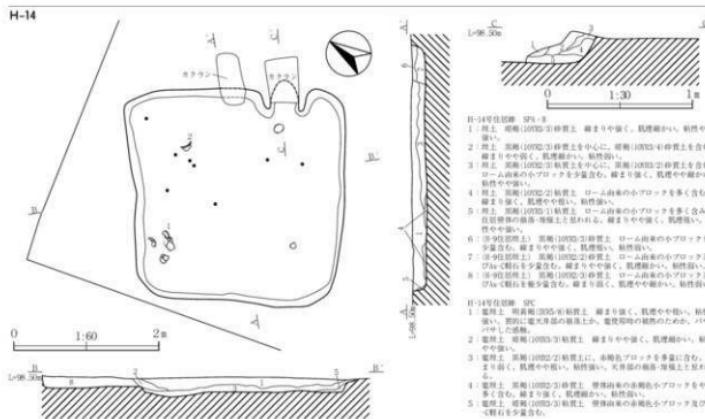
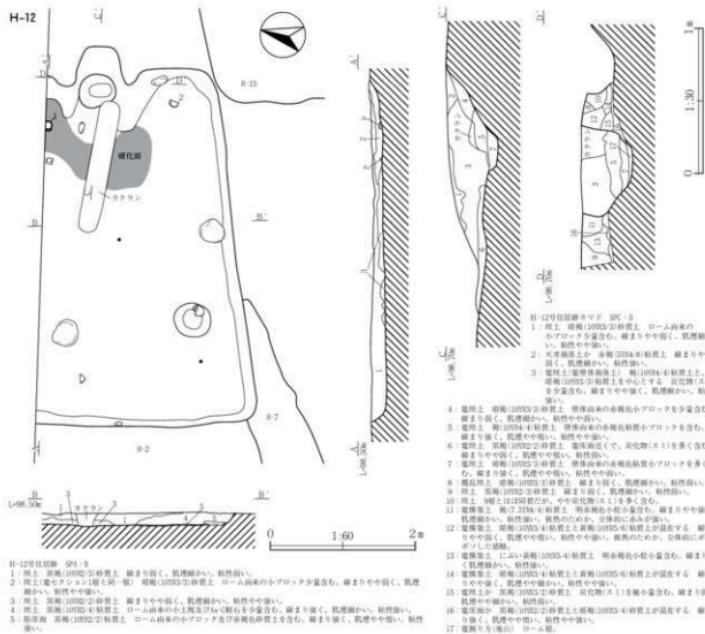
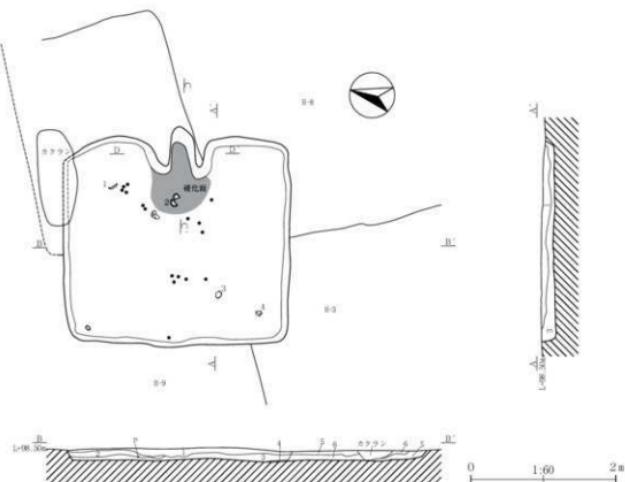


Fig.11 H-12・14号住居跡



H-13



H-13カマド

- H-13住居跡 カマド 地図 C-D
1. 自然土: (1032-1)砂質土: 繊毛より強く、肌理やや細かい。粘性やや強い。
2. 基土: 黒磚(1032-3)砂質土: Ar-C耐水性を多少含む。繊毛より強く、肌理やや細かい。粘性やや強い。
3. 基土: 黒磚(1032-3)砂質土: Ar-C耐水性を多少含む。繊毛より強く、肌理やや細かい。粘性やや強い。
4. 基土: 黒磚(1032-3)砂質土: Ar-C耐水性を多少含む。繊毛より強く、肌理やや細かい。粘性やや強い。
5. 基土: 黒磚(1032-3)砂質土: Ar-C耐水性を多少含む。繊毛より強く、肌理やや細かい。粘性やや強い。
6. 基土: 黒磚(1032-3)砂質土: Ar-C耐水性を多少含む。繊毛より強く、肌理やや細かい。粘性やや強い。
7. 基土: 黒磚(1032-3)砂質土: Ar-C耐水性を多少含む。繊毛より強く、肌理やや細かい。粘性やや強い。
8. 基土: 黒磚(1032-3)砂質土: Ar-C耐水性を多少含む。繊毛より強く、肌理やや細かい。粘性やや強い。
9. 基土: 黒磚(1032-3)砂質土: Ar-C耐水性を多少含む。繊毛より強く、肌理やや細かい。粘性やや強い。
10. 基土: 黒磚(1032-3)砂質土: Ar-C耐水性を多少含む。繊毛より強く、肌理やや細かい。粘性やや強い。
11. 基土: 黒磚(1032-3)砂質土: Ar-C耐水性を多少含む。繊毛より強く、肌理やや細かい。粘性やや強い。
12. 基土: 黒磚(1032-3)砂質土: Ar-C耐水性を多少含む。繊毛より強く、肌理やや細かい。粘性やや強い。
13. 基土: 黒磚(1032-3)砂質土: Ar-C耐水性を多少含む。繊毛より強く、肌理やや細かい。粘性やや強い。



Fig.12 H-13号住居跡



H-8

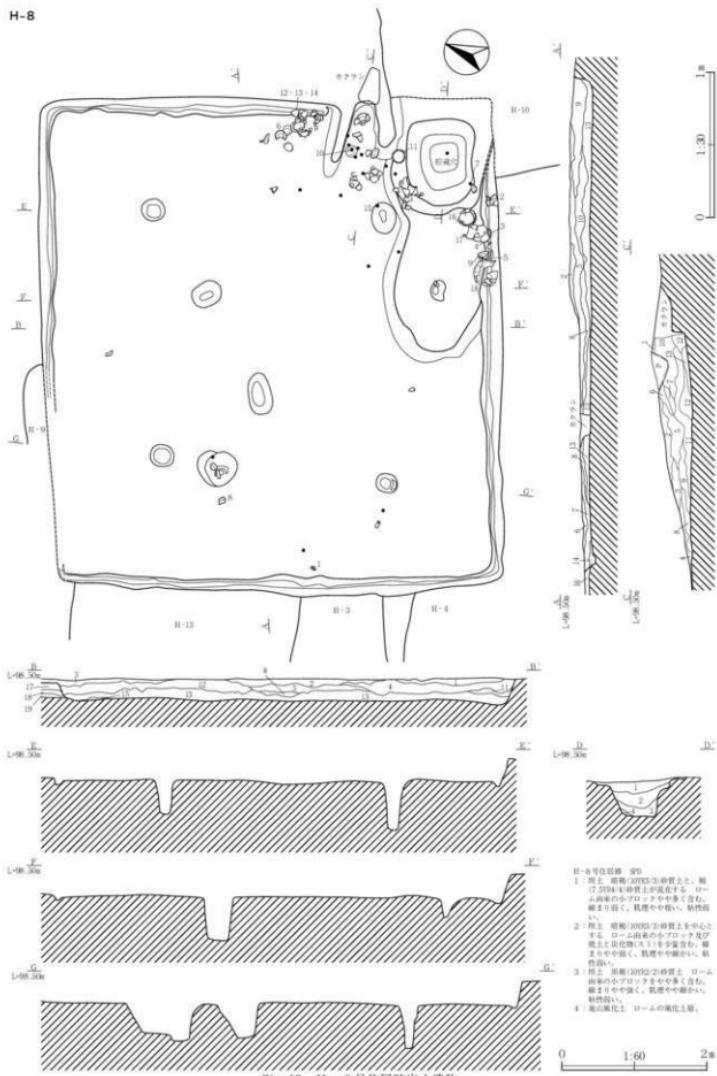


Fig.13 H-8号住居跡出土遺物



H-8号住居跡 SP8-5

1. 地上。廻廊(10935-2)砂質土及び黒炭(10932-3)砂質土が混在する。ローム表面を少含む。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
2. 地上。廻廊(10935-2)砂質土及び黒炭(10932-3)砂質土が混在する。ローム表面及びローム表面の小プロックを少量含む。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
3. 地上。廻廊(10935-2)砂質土及び黒炭(10932-3)砂質土が混在する。ローム表面及びローム表面の小プロックを少量含む。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
4. 地上。廻廊(10935-2)砂質土及び黒炭(10932-3)砂質土が混在する。ローム表面及びローム表面の小プロックを少量含む。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
5. 地上。廻廊(10935-2)砂質土及び黒炭(10932-3)砂質土が混在する。ローム表面及びローム表面の小プロックを少量含む。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
6. 地上。廻廊(10935-2)砂質土及び黒炭(10932-3)砂質土が混在する。ローム表面及びローム表面の小プロックを少量含む。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
7. 地上。廻廊(10935-2)砂質土及び黒炭(10932-3)砂質土が混在する。ローム表面及びローム表面の小プロックを少量含む。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
8. 地上。廻廊(10935-2)砂質土及び黒炭(10932-3)砂質土が混在する。ローム表面及びローム表面の小プロックを少量含む。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
9. 地上。廻廊(10935-2)砂質土及び黒炭(10932-3)砂質土が混在する。ローム表面及びローム表面の小プロックを少量含む。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
10. 地上。廻廊(10935-2)砂質土及び黒炭(10932-3)砂質土が混在する。ローム表面及びローム表面の小プロックを少量含む。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
11. 地上。廻廊(10935-2)砂質土を中心に。黒炭(10932-2)砂質土含む。ローム表面及びローム表面の小プロックを少量含む。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
12. 地上。廻廊(10935-2)砂質土と、廻廊(10934-4)砂質土が混在する。ローム表面及びローム表面の小プロック及び瓦片を少量含む。縫まりやや強く、肌理細かい。粘性強い。
13. 地上。廻廊(10935-2)砂質土と、廻廊(10934-4)砂質土が混在する。ローム表面及びローム表面の小プロック及び瓦片を少量含む。縫まりやや強く、肌理細かい。粘性強い。
14. 地上。廻廊(10935-2)砂質土と、廻廊(10934-4)砂質土が混在する。ローム表面及びローム表面の小プロックを少量含む。縫まりやや強く、肌理細かい。粘性強い。
15. 在庫。廻廊(10935-2)砂質土と、廻廊(10934-4)砂質土が混在する。ローム表面及びローム表面の小プロックを少量含む。縫まりやや強く、肌理細かい。粘性強い。
16. 在庫。廻廊(10935-2)砂質土と、廻廊(10934-4)砂質土が混在する。ローム表面及びローム表面の小プロックを少量含む。縫まりやや強く、肌理細かい。粘性強い。
17. 在庫。廻廊(10935-2)砂質土と、廻廊(10934-4)砂質土が混在する。ローム表面及びローム表面の小プロックを少量含む。縫まりやや強く、肌理細かい。粘性強い。
18. 在庫。廻廊(10935-2)砂質土と、廻廊(10934-4)砂質土が混在する。ローム表面及びローム表面の小プロックを少量含む。縫まりやや強く、肌理細かい。粘性強い。
19. 在庫。廻廊(10935-2)砂質土と、廻廊(10934-4)砂質土が混在する。ローム表面及びローム表面の小プロックを少量含む。縫まりやや強く、肌理細かい。粘性強い。

H-15

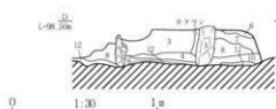
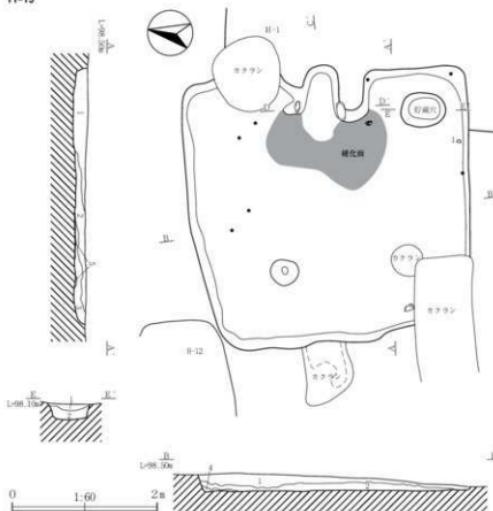


Fig. 14 H-8・15号住居

H-15号住居跡 SP8-5

1. 地上。廻廊(10932-3)砂質土。廻廊(10932-3)砂質土。ローム表面の小プロックを少量含む。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
2. 地上。廻廊(10932-3)砂質土。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
3. 地上。廻廊(10932-3)砂質土。廻廊(10932-3)砂質土。ローム表面の小プロックを少量含む。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
4. 地上。廻廊(10932-3)砂質土。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
5. 地上。廻廊(10932-3)砂質土。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
6. 地上。廻廊(10932-3)砂質土。廻廊(10932-3)砂質土。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
7. 地上。廻廊(10932-3)砂質土。廻廊(10932-3)砂質土。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
8. 地上。廻廊(10932-3)砂質土を中心に。廻廊(10932-3)砂質土。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
9. 地上。廻廊(10932-3)砂質土。廻廊(10932-3)砂質土。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
10. 地上。廻廊(10932-3)砂質土。廻廊(10932-3)砂質土。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
11. 地上。廻廊(10932-3)砂質土。廻廊(10932-3)砂質土。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
12. 地上。廻廊(10932-3)砂質土。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。

H-15号住居跡 SP8-6

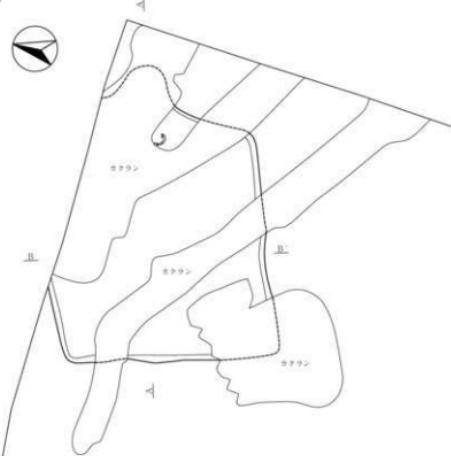
1. 地上。廻廊(10932-3)砂質土。廻廊(10932-3)砂質土。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
2. 地上。廻廊(10932-3)砂質土。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
3. 地上。廻廊(10932-3)砂質土。廻廊(10932-3)砂質土。ローム表面の小プロックを少量含む。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
4. 地上。廻廊(10932-3)砂質土。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
5. 地上。廻廊(10932-3)砂質土。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
6. 地上。廻廊(10932-3)砂質土。廻廊(10932-3)砂質土。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
7. 地上。廻廊(10932-3)砂質土。廻廊(10932-3)砂質土。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
8. 地上。廻廊(10932-3)砂質土。廻廊(10932-3)砂質土。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
9. 地上。廻廊(10932-3)砂質土。廻廊(10932-3)砂質土。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
10. 地上。廻廊(10932-3)砂質土。廻廊(10932-3)砂質土。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
11. 地上。廻廊(10932-3)砂質土。廻廊(10932-3)砂質土。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
12. 地上。廻廊(10932-3)砂質土。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。

H-15号住居跡 SP8-7

1. 地上。廻廊(10932-3)砂質土。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。
2. 地上。廻廊(10932-3)砂質土を中心に。廻廊(10932-3)砂質土。縫まりやや弱く、肌理細かい。粘性弱い。



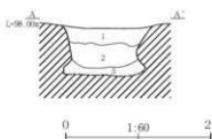
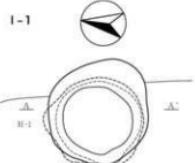
H-16



H-16号住居、SP-1
1. 砂質の土壌。表面は褐色である。ローム層を含む。壁は比較的薄く、底盤は厚い。
2. 砂質の土壌。表面は褐色である。ローム層を含む。壁は比較的薄く、底盤は厚い。
3. 砂質の土壌。表面は褐色である。ローム層を含む。壁は比較的薄く、底盤は厚い。
4. (以下、解説省略)

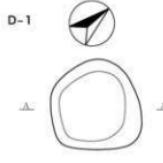


0 1.60 2m

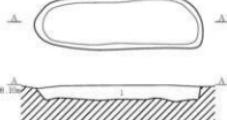


0 1.60 2m

- I-1号井戸 SP-1
1. 土壌。表面は褐色である。ローム層を含む。壁は比較的薄く、底盤は厚い。
2. 土壌。表面は褐色である。ローム層を含む。壁は比較的薄く、底盤は厚い。
3. 土壌。表面は褐色である。ローム層を含む。壁は比較的薄く、底盤は厚い。
4. (以下、解説省略)



D-2



- D-2・3号土坑 SP-1
1. 土壌。表面は褐色である。ローム層を含む。壁は比較的薄く、底盤は厚い。

Fig. 15 H-16号住居、I-1号井戸、D-1～3号土坑



W-1 • 2

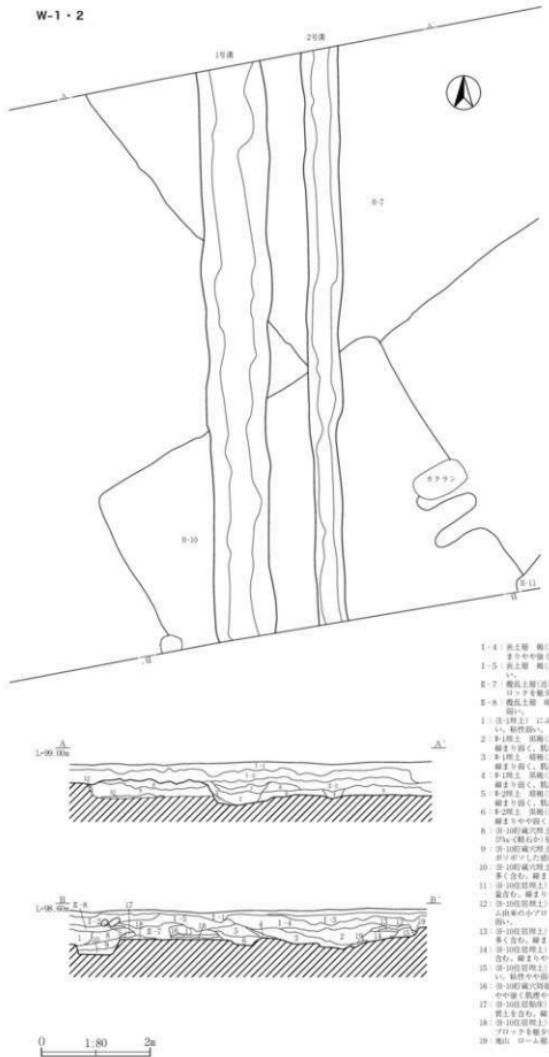


Fig.16 W-1·2号溝

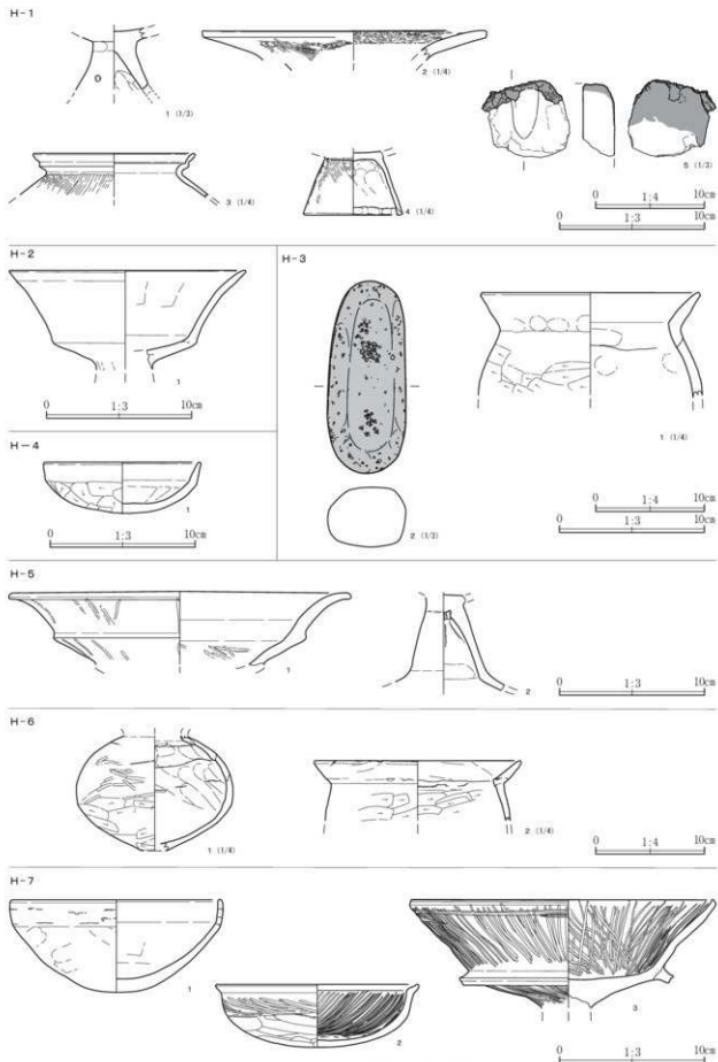
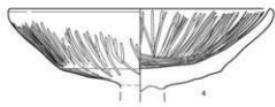


Fig. 17 H-1 ~ 7号住居跡出土遺物

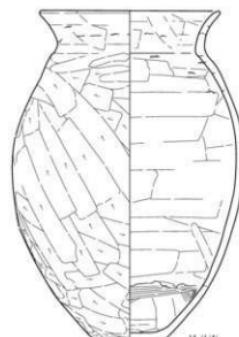
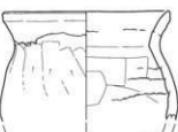
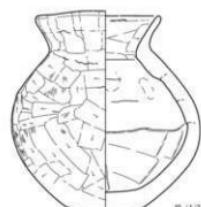
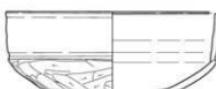
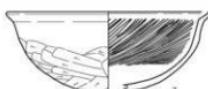
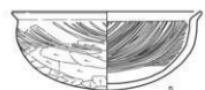
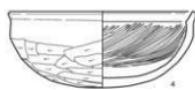
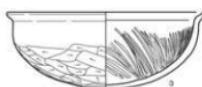
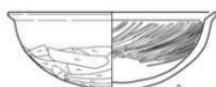
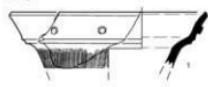


H-7



0 1:3 10cm

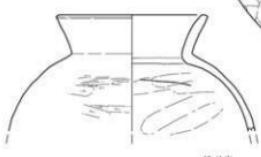
H-8



10 (1/3)

11 (1/4)

14 (1/4)



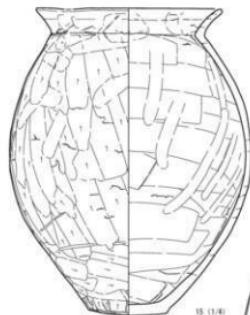
12 (1/4)

0 1:4 10cm
1:3 10cm

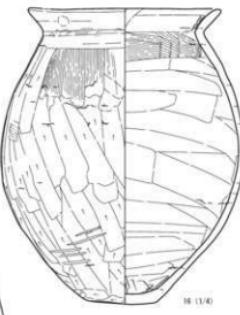
Fig. 18 H-7 · 8号住居跡出土遺物



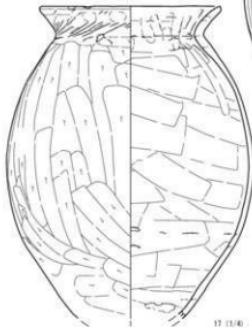
H-8



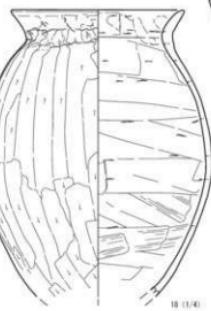
15 (1/4)



16 (1/4)



17 (1/4)



18 (1/4)

0 1:4 10cm

—●—

6 (3/2)

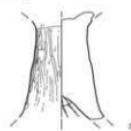
—◎—■

7 (3/2)

H-10



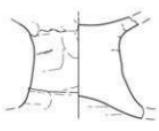
H-9



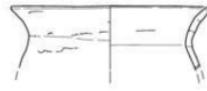
3



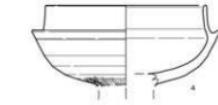
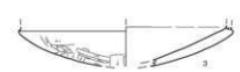
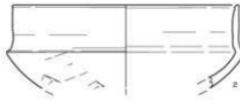
2



4



5

0 1:2 5cm
0 1:3 10cm

0 1:3 10cm

Fig. 19 H-8 ~10号住居跡出土遺物

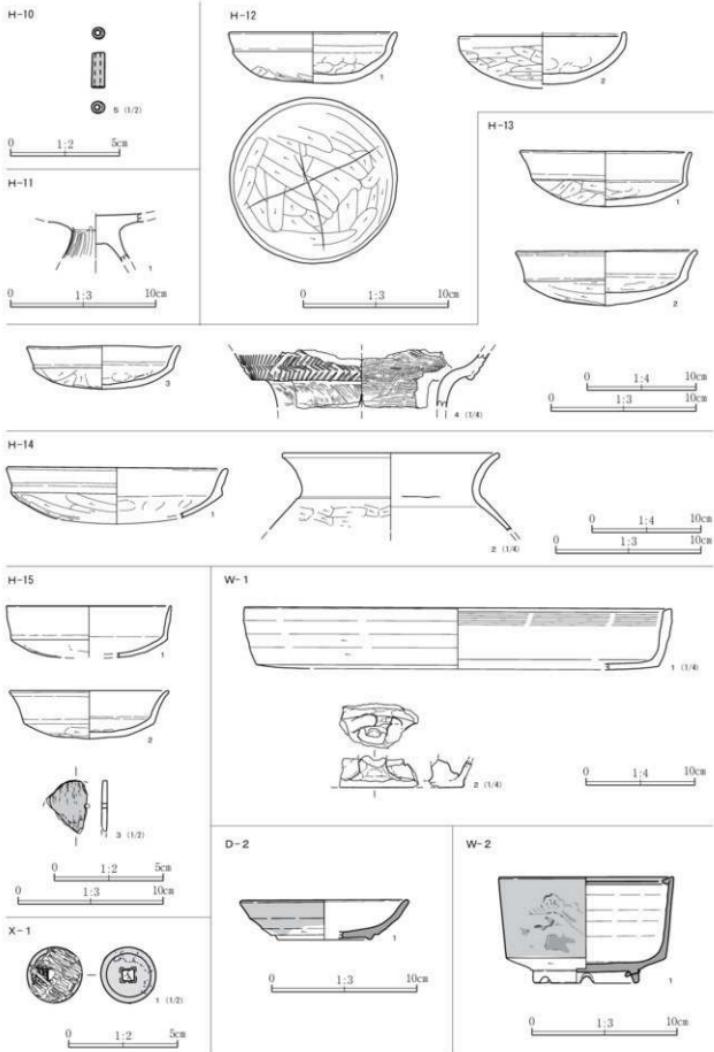


Fig. 20 H-10~15号住居、D-2号土坑、W-1・2号溝、X-1号墓出土遺物



PL. 1



調査区全景（東から）



調査区全景（北西から）



PL. 2



H-1号住居跡全景（北から）



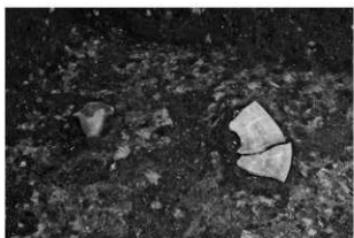
H-1号住居跡炉検出状況（南から）



H-2・7号住居跡全景（西から）



H-3・4号住居跡全景（東から）



H-5号住居跡遺物出土状況（南から）



H-7号住居跡遺物出土状況（南から）



H-8号住居跡全景（西から）



H-8号住居跡遺物出土状況（北から）



PL. 3



H-9号住居跡全景（西から）



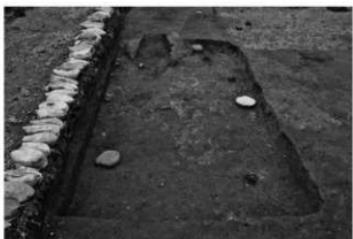
H-9号住居跡縦全景（西から）



H-10号住居跡全景（西から）



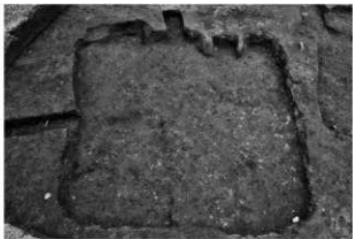
H-11号住居跡全景（西から）



H-12号住居跡全景（西から）



H-13号住居跡全景（西から）



H-14号住居跡全景（西から）



H-15号住居跡全景（西から）



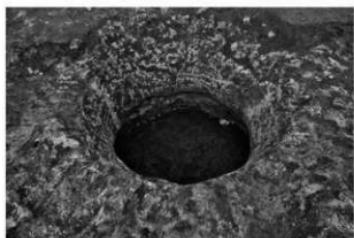
PL. 4



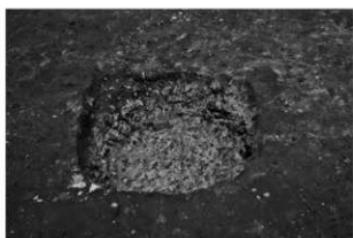
H-15号住居跡全景（西から）



H-16号住居跡全景（西から）



I-1号井戸全景（西から）



D-1号土坑全景（南から）



D-2・3号土坑半裁状況（南から）



X-1号遺物出土状況（北から）



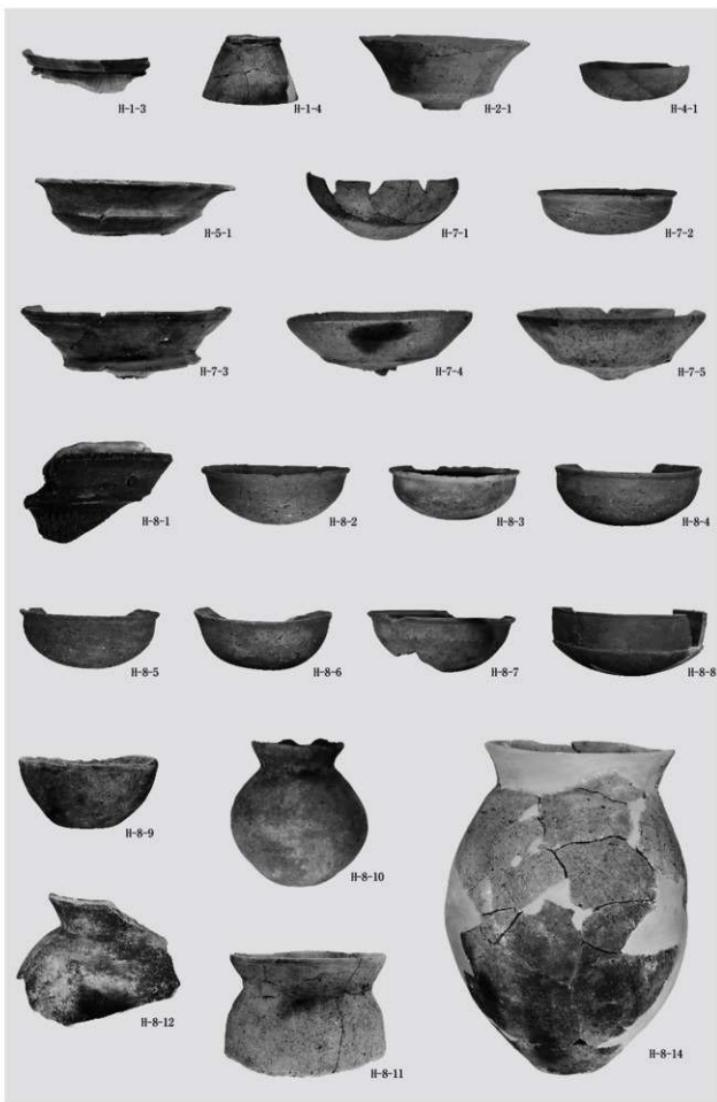
調査風景（南から）



調査風景（東から）

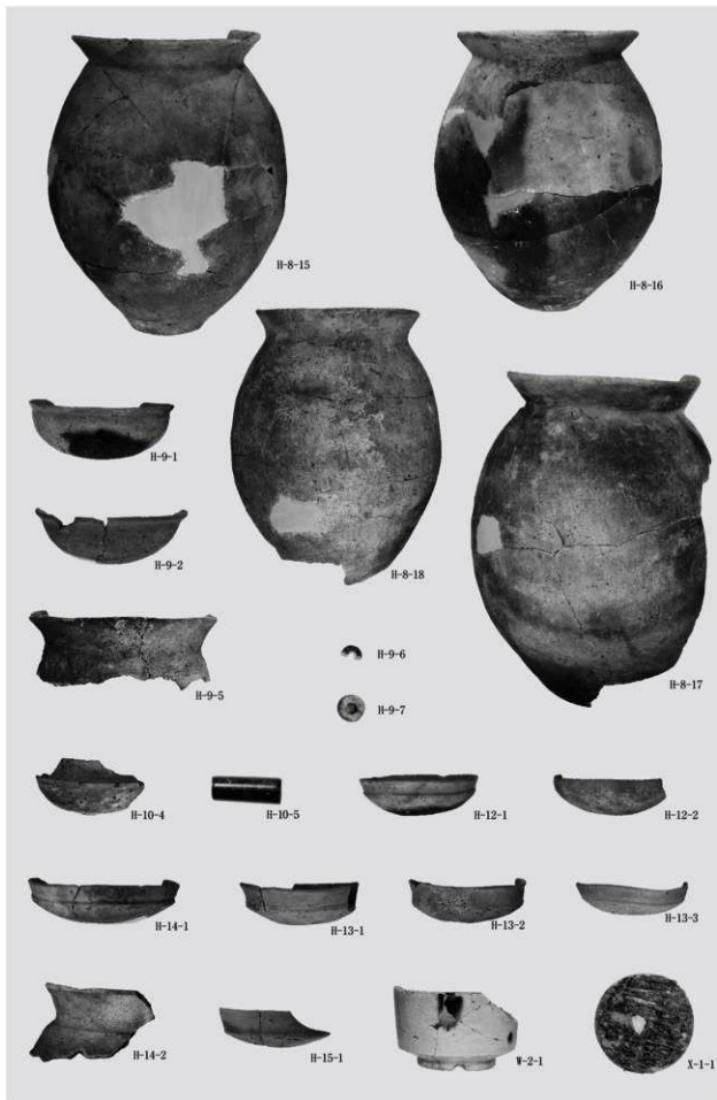


PL. 5





PL. 6





報告書抄録

ふりがな	ろくくいせきぐんNo.5
書名	六供遺跡群No.5
副書名	前橋都市計画事業六供土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	一
シリーズ名	一
シリーズ番号	一
編著者名	神宮 聰・山田誠司
編集機関	技研測量設計株式会社
発行機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
発行機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三保町二丁目10-2
発行年月日	2009年12月28日

所収遺跡名	所 在 地	市町村	遺跡番号	位 置		調査期間	調査面積	調査原因
				北緯	東経			
六供遺跡群No.5	前橋市六供町 198-9ほか	10201	21H47	36°22'14"	139°4'34"	20090615 20090717	700m ²	区画整理 事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主 な 遺 物	特記事項
六供遺跡群No.5	集落	古墳 中近世	住居	16軒	土師器	
			土坑	3基	須恵器	
			溝	2条	陶器	
			井戸	1基	磁器	
			墓	1基	鉄製品	

六供遺跡群 No.5

前橋都市計画事業六供土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2009年12月18日 印刷
2009年12月28日 発行

発行

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

〒371-0018 群馬県前橋市三保町二丁目10-2

TEL 027-231-9531

編集
印刷

技研測量設計株式会社
朝日印刷工業株式会社









